「いじめを**見立てる力**を高める校内研修」手順書

《資料内容》 ４枚

ア　手順書（本紙）

イ　資料１　「各検討項目の留意点」

ウ　資料２ 表「いじめ事案の初期判断のためのフローチャート」

　　　　　 裏「初期判断と支援の方向性の例」

エ　別紙「情報カード」…事例ワークの実施前に配付

【当日の流れ】

１．導入…研修のねらいと事例ワークの説明

(1) 研修のねらい

いじめの架空事例を用いたグループでの事例ワークを通して、 ○　いじめ事案の初期判断についての合意形成を体験し、組織的な見立て（情報収集やリスク検討）の意義を考える。 ○　いじめ事案を見立てるポイントとして、いじめの「判断の観点」と「深刻化のリスク」を理解し、共有する。

(2) 研修のポイント

①　いじめ深刻化の三つのキーワード資料１【Ⅱ．深刻化のリスク】

②　いじめ判断の三つのポイント資料２表：上部【判断の３観点とポイント】

③　いじめの初期判断資料２表：下部【初期判断のフローチャート】

(3) ワークの流れと内容

(4) ワークにおける留意点

(5) ワークの準備…グループで役割分担

２．実践…事例ワークの実施

(1) 情報整理

○情報カードを読む別紙

❶個人の判断を決める資料２

(2) Ⅰ　情報収集・状況整理

(3) Ⅱ　深刻化のリスク資料１

(4) Ⅲ　初期判断

❷グループの判断を決める資料２

○支援の方向性の例を確認する

３．まとめ…グループでの振り返り（互いに伝え合う）

事例ワークの❶個人の判断から❷グループの判断にかけて、あなたの考えに変化はありましたか。また、変化したと感じる場合、それは他者やグループのどのような影響（意見・考え）によるものと思いますか。